

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	HEDAYATULLAH SIDDIQI
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Jihad and Madrasas Strategic Actors and Policy Domains in Islamic States: Analysis of the Strategic Culture and Security Policies of Afghanistan and Pakistan			
論文審査担当者 Dissertation Committee Members 主 査 Chair 広島大学大学院国際協力研究科 教授 吉田 修 印 Seal 審査委員 Member 広島大学大学院国際協力研究科 教授 川野徳幸 審査委員 Member 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 山根達郎 審査委員 Member 大阪大学大学院言語文化研究科 教授 山根 総 審査委員 Member School of International Studies, Jawaharlal Nehru University Professor, Jaswal Swaran Singh			
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本論文は、マドラサ（イスラーム学院）とジハード（イスラームの聖戦）が今日のイスラーム社会における国家、中でもアフガニスタンとパキスタンにおいて、その防衛政策のパターンを説明する戦略文化を形成していることを明らかにするものである。全体は 6 章と結論から構成されており、第 1 章「序論：戦略文化の構成要素としてのジハードとマドラサ」では、本論文の課題として、「マドラサとは何か、その今日的役割は通常理解であるイスラーム宗教教育の中心というものでよいか」、「ジハードは歴史時代を通じて国家や非国家の地政学的・戦略的利益に奉仕してきたか」、そして「マドラサやジハードはイスラーム世界、特にアフガニスタンやパキスタンで国家の戦略文化として機能しうるか」という 3 つの課題を掲げる。 第 2 章「文献レビュー」では、おもにジハードに関するコーランの解釈をめぐる字義解釈派と文脈解釈派との対立を中心に考察し、本来の解釈ではジハードは預言者ムハンマドと異教徒との 23 年間の関係についてのさまざまな知識や詳細な分別を基礎になされなければならないと論じる。 第 3 章「イスラーム世界におけるジハードとマドラサの政治史」では両国の非都市圏では教育はマドラサで行われており、それらは国内外（サウジアラビアなど）の寄付に依存しつつ、政府には依存していないこと、国家統治において重要な役割を果たしつつあること、ジハード概念が 16 世紀にイスラームの時代が終わって後、西洋植民地主義に対して使われたばかりではなく、イスラーム世界内部の部族的・宗派的対立においても使われたことを示す。 第 4 章「アフガニスタンの宗教、文化及び政治」と第 5 章「パキスタン：宗教、文化、政治構造」では、両国の部族的構成や歴史的的特殊性に対応する特殊性に冷戦という外的要素が作用してそれぞれの戦略文化が形成され、マドラサがその管制高地となってゆくさまが論じられる。 第 6 章「結論」では、各部族・民族の特徴を示す文化と、その意味での文化には含みえ			

ないイスラームとの違いを指摘したうえで、ジハードを単なる文化ではなく戦略文化として捉えることの重要性を強調し、ジハードをさまざまなアクターがそれぞれの戦略的利害によってさまざまに解釈した結果と見る観点の重要性を明らかにする。そして同時に、それにその解釈の場としてのマドラサが重ねあわされることによって、イスラーム世界における力と富と指導力を生み出していると結論付ける。

以上の本論文の内容に対して、審査委員はその概念枠組や事例研究を高く評価した上で、本論文がイスラームの本質から説き起こし、その一体性よりも対立の側面を「ジハード」概念の発展から明らかにして、そのうえでマドラサをイスラーム社会における多様性や対立の基盤と捉え、「戦略文化」という概念を提示しつつ、マドラサが外部の諸利害をイスラーム内部の利害対立に変換する機能を持つことを論証した点は、極めて高度な学問的貢献であり、申請者は博士（学術）の学位を授与されるに十分な学識と能力を有しているものと認め、合格に値すると判断した。